

済生会中津病院100周年の取り組み

西原優二^{1, 3} 大和謙二² 上田健一³ 岩下珠美⁴

大阪府済生会中津病院 総務課¹ 大阪府済生会中津医療福祉センター広報委員会²
Nakatsu Sports Festival実行委員会³ 大阪府済生会中津病院地域医療連携センター⁴

済生会中津病院の100年記念行事の取り組み

大正5年に済生会大阪府病院として開設された済生会中津病院は、平成28年に100周年を迎えました。病院では、その記念の年にあたり1年以上にわたって様々なイベントが企画されました。それぞれの企画の担当者に準備から開催までの経過を振り返ってもらいます。

第68回済生会学会及び済生会総会の開催

平成25年10月に第66回済生会学会が東京の中央病院主催で行われ、それと前後して2年後の平成27年度第68回済生会学会及び済生会総会の主催地が中津病院になることが決定されました。様々な事情で実際の開催は平成28年の2月27日、28日となり、結果的には中津病院が開院100周年を迎える年に開かれることとなりました。済生会学会と同時に行われる済生会総会は、全国の済生会病院・施設の永年勤続者の表彰も行われ、多くの職員が集まる一大イベントです。総会には秋篠宮総裁のご臨席もあることから、時間をかけての入念な準備が必要でした。

平成26年の春には、コンベンション業務の依頼先をJTBCに決め、4月には会場候補であるグランキューブ大阪に視察に行きました。かつて当院主催で行われるはずであった学会を諸事情で返上していたこともあり、学会の本番を担当することこそは、中津病院が済生会の中で本来のポジションを取りもどす証しでもあったのです。

同年8月には、学会のテーマを職員から募集し、「見つめよう、考えよう、今、済生会に求められること！」に決定しました。折しも社会福祉法人のありかたが問題になっていたこともあり、時宜を得たテーマとなりました。

いよいよ開催を1年後に控えた平成27年1月29日、総勢21名のメンバーが、様々なノウハウを学ぶべく、

福岡で開催された第67回済生会学会・総会を訪門しました。学会の開催のやり方も主催する病院毎に違いがあり、福岡病院は、外部スタッフに任せるところは任せ、病院職員の業務量をできるだけ少なくする方針で運営されていることがわかりました。一方その前年の中央病院の運営は、できるだけ外部への委託を減らし、職員自らが管理運営する方針のようでした。総合的に判断して当院としては、150人規模の職員で、コンベンション会社とともに運営していくこととなりました。

平成27年3月10日、25名の出席者により、済生会学会開催のための初回ミーティングが開かれ、以後準備プロジェクト会議が月1回、事務局会議が毎週開かれました。万全の準備・計画を立案することはもちろんとして、学会に全国から集ってくる参加者をどのようにおもてなしするか、また院内的にはすべてのスタッフに参加意識を持ってもらうよう全病院で盛り上げる方策を検討しました。その中で生まれたアイデアが、全職員がお客様をお迎えするという意味を込めて自分たちの笑顔の写真でモザイクアートを作るという企画です。多くの職員が仕事の合間を縫って写真の撮影に協力し、大きな北棟のファサードのモザイクアートが完成しました。これは現在でも南棟2階に飾られています。また、院内では「学会ニューズペーパー」が毎月発行されたり、名札に貼るロゴマークのシールが作られたり、本番に向けて着々と盛り上がりが見られてきました。

一方、学会開催には、秋篠宮総裁のご臨席もあることから厳格なセキュリティ対策が求められることとなり、グランキューブ大阪での総会会場と、リーガロイヤルホテルでの懇親会会場出入り口2カ所での参加証の提示や、荷物のチェックなどの対策が取られることになりました。



写真1 学会ロゴマーク

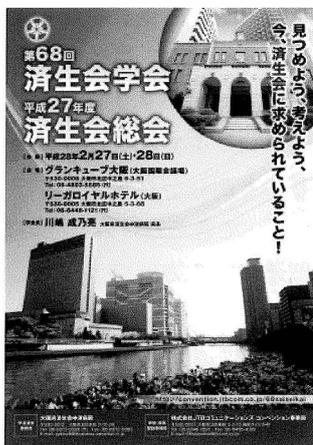


写真2 学会ポスター

とは言え、おもてなしの気持ちも伝わるように、学会後のエクスカージョンには、中津病院主催の学会らしい、大阪スペシャルのコースを用意することになりました。中でもユニークなのは「大阪味と笑いの満腹コース」で、なんばグランド花月とワッハ上方をはしごして、更に道具屋筋を散策するという、大阪人でもなかなかやる気にならないこてこてのプランでした。評判の方はいまだに不明です。

前日の各種会合を終えて平成28年2月28日、さあいよいよ本番です。ポスター発表も合わせて一般演題でも500題近い応募があり、7つのランチョンセミナー、3つのシンポジウムからなる大規模な学会であるため、朝から参加者が殺到して来ます。受付は大忙しです。開会式の会場では、式を待つ参加者に向けて、この日のために作られた中津病院の紹介ビデオが上映されています。各ブースの前で女性職員は揃いの黄色のスカーフを身につけ案内をしています。フロアの隅々に配置された男性職員も参加者の誘導を行っています。会場の担当者もスライドやアナウンスなどスムーズな進行

の準備に余念がありません。クローク担当の職員が次から次へと預けられる荷物をさばっています。時間が経つにつれ参加者は増え続けています。3階のポスター会場、5階のメインホール、10階の5つの会場、12階の2つの会場を参加者は次から次へと移動しています。エスカレーターにはいつも長蛇の列ができています。15時半からの総会は、表彰者が全員5階メインホールに集まり、総裁のご臨席もあることから、職員は緊張しながら分刻みの進行で進めました。

無事総会も終了し、最後の懇親会を盛大に終え、あっという間によく2年半にわたる大イベントが終わりました。

参加者は実に2300名を超えていました。

100周年記念DVDの作成

平成28年に済生会中津病院が100周年を迎えるにあたり、その前年、平成27年の4月末に、100周年を記念する映像作品を作るという指示が広報課に下されました。翌年には中津病院が主催して済生会学会が開催されることもあり、その会場で上映することにより中津病院の存在感を高める効果も期待されていました。広報課で、済生会福井病院が制作した映像や、その他の病院プロモーション映像を研究して検討した結果、対外的には中津病院の長い歴史とその発展を盛り込んだ内容とし、一方センターの職員に向けては病院に対する帰属意識と、モチベーションを高める内容とする両面作戦という方向性が決まりました。2015年7月30日には、後に制作を担当することになるマイナビを始めとする4社が参加して、作品プランのコンペティションが開かれました。各社それぞれから優れたアイデアが提出され、選考は難航を極めました。総合的な判断で、マイナビ案が採用されることとなりました。マイナビ案は、中津病院の塔屋を象徴的に狂言回しとして使い、当院の歴史の紹介から始まり、職員へのインタビューと、病院内の様々な光景のモンタージュで構成するという案でありました。また、当時すでに一般的になり始めていたドローンを使って病院を空撮し、エンディングのカットにするにするという説明があり期待は高まりました。

年内に完成させる予定で、シナリオの作成と、ロケハン、また出演者の選定と交渉などは順調に進み、各部署、部門の協力を得ながら、いよいよ10月16日、18日、19日の三日間にわたる撮影が開始されました。16日朝、7時過ぎより準備にはいり、8時より北野総長

のオープニングシーンの撮影が始まりました。出演者、スタッフの緊張のなか、無事撮影を終了しました。この日は、その後いくつかのインタビューシーンを撮影することができました。インタビューに応じていただいた職員の方は、皆さんその熱い思いを語っていただき、映像が深みのあるものになりました。

18日はいよいよ、ドローンを使った空撮です。空気が澄み渡り、電波状態の良い日曜早朝の一瞬のチャンスで撮影を終わらせねばなりません。光の関係もあり、朝7時半からの僅かな時間が勝負です。病院玄関前に集合したスタッフは、全員が空を眺めています。空は快晴、朝凧で風も弱く絶好の飛行日和です。全員この日のために行いを良くしてきたとしか思えません。すぐに屋上のヘリポートに登り準備開始、地上部隊は病院の敷地の四方の上空と地上の安全監視のために配置されています。いよいよドローンの離陸です。地上からは、監督の合図とともに、ドローンがヘリポートを飛び立っていくのが見えます。病院の上をしばらく旋回し、また静止し、撮影は順調のようです。街が騒がしくなる直前に撮影を終わって、ドローン部隊は撤収しました。この時の映像が、DVDのエンディングに使われている六甲山まで鮮明に見渡せる奇跡的な映像です。

19日は、川嶋院長が、長台詞を語りながらカメラと一緒に移動して、角を曲がって立ち止まり、しかもそこでセリフがちょうど終わる、という極めて高度な演技力を必要とするシーンの撮影でした。この監督、そりゃかっこいいシーンだけれど、素人相手にむちゃするなと感じていましたが、本番に入って、驚くべきことに、一発OKという奇跡が起きました。いや奇跡ではなくおそらく念入りに台詞の練習をしてきた川嶋院長の準備の賜でしょう。脱帽です。スタッフ全員この快挙に、最後の勢いがついて時間にも余裕ができたことから、取り残しの追加を幾つか撮影して余裕で撮影終了となりました。

ナレーションの録音、幾つかの編集の修正をへて、平成27年12月8日0号試写が行われ、多少の修正が行われ、12月29日、ぎりぎり年内に初号の完成となりました。(注、映画やCMなどで、修正点を確認するための試験的な映像のプリントを0号、修正を終えて最初にプリントされたものを初号という)。

最初の本番の上映は、平成28年2月28日の済生会学会の会場を予定していましたが、それに先立って、出演や撮影に協力していただいた方々に向けに2月4日

と2月10日の2回、先行上映回を開催しました。多くの職員の方に見てもらい、元気が出てくる良い作品だったと言う感想があり、また学会場での上映でも好評を得たとのことでした。

Nakatsu Sports Festivalの開催

「なにかみんなで楽しいことをやろうよ！」

100周年という記念すべき一大イベントを前に、そのような思いが漠然と職員の中に増えてきていました。実際、センター内で一緒に仕事をしていても、みんなで盛り上がる機会は少ないし、以前のように病院全体の忘年会も今は行われていないし、クラブで一部の職員がスポーツを楽しんでいるけれども、職員みんなが楽しんでいるわけではありません。それならばいっそ病院全体で100周年記念に大運動会を行ったらどうだろうかという声が生まれてきたのも当然でした。一方で済生会支部からも、100周年に何かイベントはしないのかという問い合わせもあり、それではこの際センターとして大運動会をやってみようという方向に舵がきられたのでした。

会場の設定などの不慣れな交渉事は、支部の紹介による代理店に任せて進めていきましたが、済生会学会主催の大役も無事果たし終え、職員もいよいよ具体的にスポーツフェスティバルの企画を考えられる段階に入ったため、平成28年の3月2日に、各部署からメンバーを集めてキックオフ会議が開催されました。しかし、代理店から提案された企画をそのまま受け入れるのではなく、自分たちでオリジナルなものを作り上げていきたいという気持ちも強く、そのためには、会議に主体的に参加し、かつ頻繁に集まる事が必要とされ、それを各部署から集めたそれぞれの業務があるメンバーに強制することはできませんでした。そこで、会議のメンバーは、少人数になるけれども、それでもやりたいという意思を確認できた有志で続けていくことに大きく方針転換しました。その間に会場は京セラドームや大阪城ホールになるかも、という雄大な話も出たりしましたが、会場側の都合により最終的に中央体育館で開催される事となりました。それでも中津医療福祉センターの企画としては大掛かりなものでした。

企画の検討の間ではいろいろな意見がかわされました。名称は運動会ではあるけれど運動の得意な人も、得意でない人も楽しく参加できるように、運動の個人競技にはこだわらないこととし、プログラムに工夫を凝らした結果以下のようにになりました。

Nakatsu Sports Festivalプログラム			
時間	プログラム	参加対象	内容
9:00~	受付開始	全員	
10:00~10:10	開会式	全員	
10:20~10:50	○×クイズ	全員	5~10の問題に対して、○か×の場所へ移動して回答。最終問題が終わった時点で残っている人数によりチーム順位を決定。
11:00~11:30	玉入れさせない	競技参加者	チーム内で守備役と攻撃役に分かれ、守備役は味方のカゴを守り、攻撃役は敵のカゴに玉を入れる。
11:40~12:00	リレー (予選)	チーム対抗戦	グループから10人が代表して、トラックをリレーして走る。上位グループは午後の決勝へ進出
12:10~12:30	ちびっこ競走	小学生以下対象	トラックを走って景品がもらえる (徒競走形式)
12:40~13:20	障害物リレー	競技参加者	多彩な障害物を乗り越えながらゴールを目指す。リレー形式。
13:30~14:10	中津医療福祉センター大好き ウルトラクイズ	競技参加者	センターに関する問題を早押し形式で回答。正解したチームは裏に得点の書かれたパネルを選択。最終問題終了時の合計得点によりチーム順位を決定。
14:20~14:40	リレー (決勝)	予選通過チーム	午前中のリレー (予選) を勝ち抜いたチームによる優勝戦。
14:50~15:10	抽選イベント	全員	参加者は天井から落ちてくる風船を一つだけ拾う。風船には豪華景品の獲得券を封入。
15:10~15:30	成績発表・閉会式	全員	成績発表・表彰式。



写真3



写真4



写真5

当日5月30日は済生会の創立記念日で本来は休日でしたが自発的な盛り上がり期待して、運動会には自主参加としていました。事前の申込みは確認していたものの、果たしてどれだけの人数が集まるのか少しばかり不安な面もあったのは事実でした。しかし、当初の予想を上回る約700名の参加があり、たくさんの賞品も用意されてみんなが楽しめる大会になりました。今後はこれを機会に、チームワークのよいセンターを作るためにも、より一層職員同士の結びつきが実感できるような大運動会を作っていけたらと考えています。

大阪府済生会中津病院創立100周年記念式典

一世紀前の大正5年10月10日、大阪市北区中崎町で済生会中津病院の歩みが始まりました。病院の場所も芝田町にかわり、建物の増築や改築をへて大きく発展し、ついに平成28年10月10日をもって100周年を迎えることになりました。この創立100周年を記念して、平成28年10月15日に、ホテル阪急インターナショナルに於いて、創立100周年記念式典・祝賀会が大々的に行われました。



写真6 祝賀会場



写真7 雅楽の公演

地元からは大阪府医師会長 茂松茂人様、大阪府病院協会会長 福原毅様、大阪市北区医師会会長 波多野泉様、全国からは日本病院会会長 堺常雄様、全国公私病院連盟会長 今泉暢登志様、全国自治体病院協議会会長 邊見公雄様、全国済生会病院長会会長 済生会唐津病院院長 園田孝志様にお越しいただき、暖かい祝辞を賜りました。これだけの方々に来ていただけるのは、やはり当院の歴史と医療に対する貢献が評価されているのだなという思いを参加者一同感じたことでした。

また祝賀会では、天理大学雅楽部OBを中心とした『おやさと雅楽会』による舞楽「太平楽」の急の部分が演じられました。100年という歴史にふさわしい雅な演目に参加者一同熱心に見入っていました。ホテル自慢のおいしい料理もゆっくりと堪能し、和やかで有意義な会にすることができました。私達職員一同は、次の100年に向かって新しい一歩を踏み出すべく思いを新たにしたのでした。

100周年誌の編集

当院は90周年を迎えた際に、90周年誌を発行したが、いよいよ開設100周年を迎えるにあたり、引き続き100周年誌編集のための資料収集が続けられていました。100周年ビデオが完成したことにより、平成27年の年末に小川看護監と広報課がチームを組んで編集にあたるよう命じられました。この際院長先生から、90周年誌とは趣を変えて今風のビジュアル重視のものがよいという指示がありました。それに基づき広報課ではまず全体のコンセプトづくりを開始、平成28年の2月には以下のような方向で制作していくことが確定しました。以下が当初のコンセプトです。

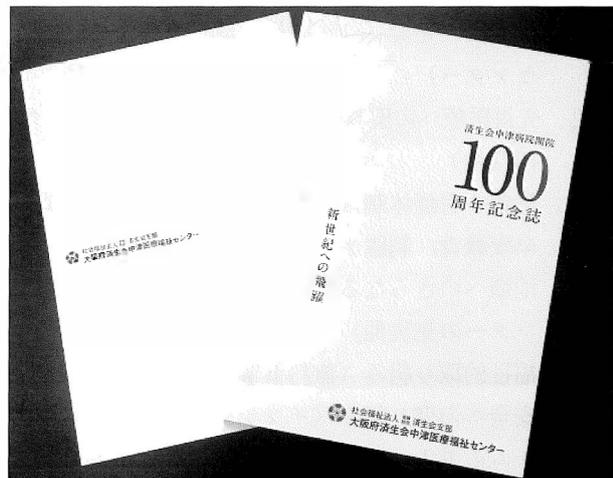


写真8 100周年誌表紙

100周年誌企画案

判型 A4 128ページ 並製 アジロ綴じ 小口折表紙 箱なし 2,000部

ビジュアル重視タイプ

コンセプト 「目で見る100年の歩み」

90年目までは簡潔に触れる。90年を年表と写真20ページで。できるだけ病院の出来事に絞って時系列に羅列的に並べる。テキストは年表とキャプション程度。

済生会に付いては基本的にまえがき2ページで語る。

年表に以下のような時代区分を導入することもありか。

草創期 (T5-S10)

解説1ページ, ビジュアル2ページ

移転発展期 (S10 ~S20)

解説1ページ, ビジュアル2ページ

戦後の復興期 (S21~S28)

解説1ページ, ビジュアル2ページ

病院拡大期 (S28 ~S54)

解説1ページ, ビジュアル3ページ

機能充実期 (S54~平8)

解説1ページビジュアル3ページ

機能高度化期 (平8 ~平17)

解説1ページ, ビジュアル3ページ

ここまで前半約20ページで90年分を扱って(時代区分については要検討)

それからの10年を, 後半60~80ページで。ここまでは別アイデアがあれば検討

ここからは時系列ではなくテーマ別の編集をする例えばテーマを

1. 診療科の充実 (31診療科, 健診センター, PETセンター)
2. 先進医療への取り組み (がん診療, リニアック, PET他)
3. 最新の看護体制 (7対1, 認定看護師の育成, 卒後教育, 制服ナースキャップ他)
4. 地域へのさらなる貢献 (地域支援病院, 連携センターの充実他)
5. 福祉の取り組み (無料低額診療他)
6. 安全への取り組み (インシデントレポートシステムの導入, 感染対策, 個人情報保護他)
7. IT化の歩み (オーダーリングから電子カルテへ

他)

8. 情報化時代への対応 (DPC病院, 情報の一元管理への取り組み他)

9. 福利厚生施設の充実 (病児保育, フルール, みんなが幸せになる病院への未来)

10. 同窓会

などとして, その到達点としての現在の病院の姿と, 今後の病院の姿を描く。

テーマごとに, それぞれ平均8-10ページ程度で。うちテキストは1から2ページ, 残りをビジュアルで。以上80ページ テーマ別の編集方針はほぼ確定。

その他

資料ページ 4ページ

センター内施設ページ 10ページ

あとがき・これからの100年 4ページ

ここまでで計120ページ程度

最後に, 各診療科ページを入れるかどうか

このコンセプトシートを数社に提示して, 各社からの提案を受けて検討したところ, 制作は当院制作物で実績のあるマイナビに依頼することになりました。以後, タイトなスケジュールの中, 院内各部署に原稿依頼, 8月にはプロによる写真撮影, 不足した写真は広報課による撮影と素材集めに奔走, 並行して, 集まった原稿の院内的調整に明け暮れることになりました。歴史的資料でもあり, 内容の吟味には時間をかけ, 25年, 40年, 50年, 90年といった過去の周年誌を幾度となく読み込み, 矛盾があれば更に調査し正確な記述に努めました。100周年記念式典が平成28年の秋に開催され, その記事を入稿して完成の予定でした。そのため, 式典から完成配布までに時間をあけられないという事が至上命令であり, 資料ページの作成, グラフの作成など仕上げの作業は時間との戦いとなりました。

平成28年の暮れまでには制作, 校正作業をすべて終了し, いよいよ年末を挟んで印刷を開始, 翌年1月20日に完成しました。刷り上がりを見て感無量, 院長先生からも良くできているというお褒めの言葉を頂きました。

病院の歴史と今の全体像がコンパクトにまとまった良い100周年誌が完成したのは, 取材, 原稿執筆に協力していただいた職員皆様の協力の賜物です。

開院100周年記念感謝祭 病診連携勉強会

地域の先生方に支えられて100年、これからも病診連携は病院の将来にとって大変重要であることは言うまでもありません。もともと当院では地域連携を推進するために毎月の勉強会のみならず、毎年一回の病診連携勉強会を開催していましたが、今回開院100周年を機会に、これまでのお力添えを感謝し、新しい先生方にも当院の病診連携をアピールしようという目的で100周年記念の病診連携勉強会が企画されました。企画自体は1年前の春より準備され、開催は100周年記念行事の最後を飾る2017年2月4日となりました。

普段の病診連携勉強会は院内の講堂を使って開かれていましたが、今回は、記念事業でもあることから、少しばかり豪華に阪急インターナショナルホテルを会場に開催されることとしました。



写真9 勉強会ポスター

開催するにあたって、100周年にふさわしい勉強会の内容が最大の検討課題でした。当然医学的な話題はテーマの一つにはしなくてはなりません。でも、参加していただける先生方にはっきりと参加するメリットも感じてもらわなければなりません。更にまた、少しは医学の話題を離れて楽しめるものにもしたいという贅沢な要求を満たすべく、連携センター内部では色々なアイデアが出されました。医学的な話題としては、特別講演1として、新たに整形外科部長として赴任された恵木丈先生に「整形外科疾患の治療 up-to-date」という演題で最先端の治療のお話をいただくこととしました。次に地域の先生に興味を持ってもらえるトピックスとして、中津病院で他病院にさきがけて導入しつつあるVDIS (Virtual Desktop Infrastructure

System) を紹介し、会場でデモンストレーションをして、実際に体験してもらうことになりました。これは当院での検査データなどを、あらかじめ登録した地域の先生がインターネットを通じて参照できるというシステムです。このシステムの実演では、多くの先生方が実際に操作をされて、その感覚を確かめておられました。特別講演としてもう一つ、少し医療を離れて楽しめる話題も盛り込みました。読売テレビの「そこまで言って委員会NP」のプロデューサーである井関猛親氏から「映画・番組制作におけるチームワークとマネジメント」と題して、TV番組の制作現場の裏話も交えながら、医療の場面にも通じるチームワークの重要性について講演をしていただきました。

例年の病診連携勉強会では30名前後の先生方の参加であったものが、今回は他の会合と重なった日程であったにも関わらず、51名の外部の先生の参加があり、内部参加も含め100名以上となりました。講演会の後の懇親会にも多数の先生が残られ、みな和やかに情報交換をしながら盛況のうちに終わりました。今後も地域の先生方の役に立つ企画を立てて、充実した病診連携の会にしていきたいと思えます。